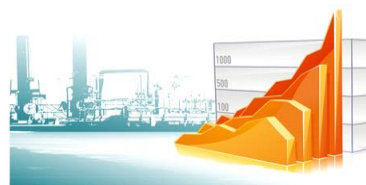


# ぎふ経済レポート



## 令和2年12月分 岐阜県商工労働部

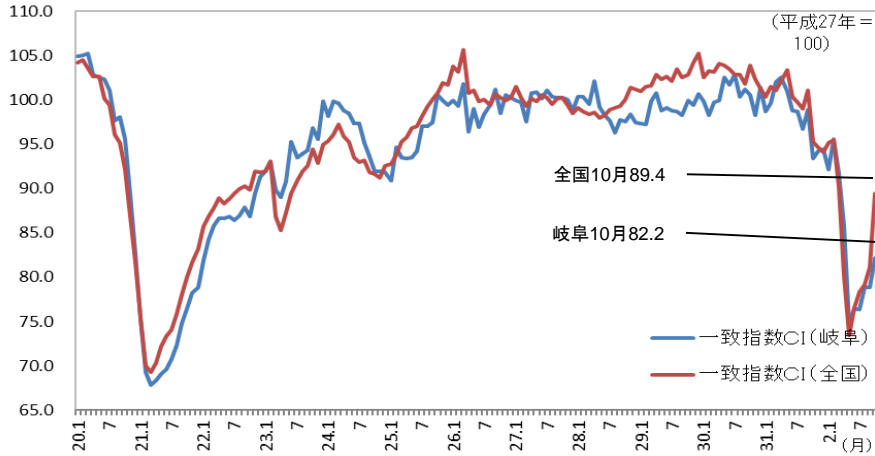
※企業等へのヒアリングは 1月5日～7日を中心に実施し、1月20日時点で作成。  
(岐阜県鉱工業指数・岐阜県景気動向指数の数値の訂正により1月29日に一部修正)

# 景気動向

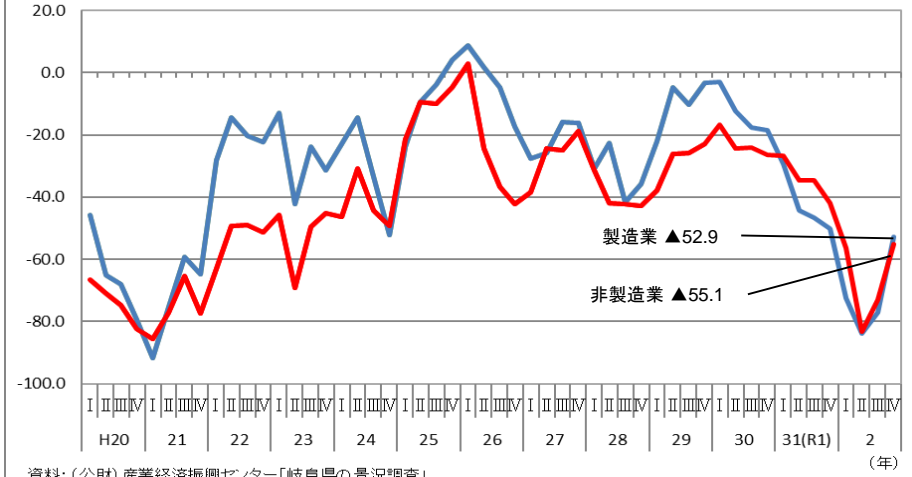
- 10月の景気動向指数(一致指数)は、82.2で前月比3.4ポイント上昇した。
- 11月の県内中小企業の景況感は、▲71で前月比5ポイント上昇した。

- 10-12月の景況DIは、製造業で24.3ポイント、非製造業で18.0ポイント改善した。
- 同売上高DIは、製造業で28.4ポイント改善、非製造業で11.3ポイント改善した。

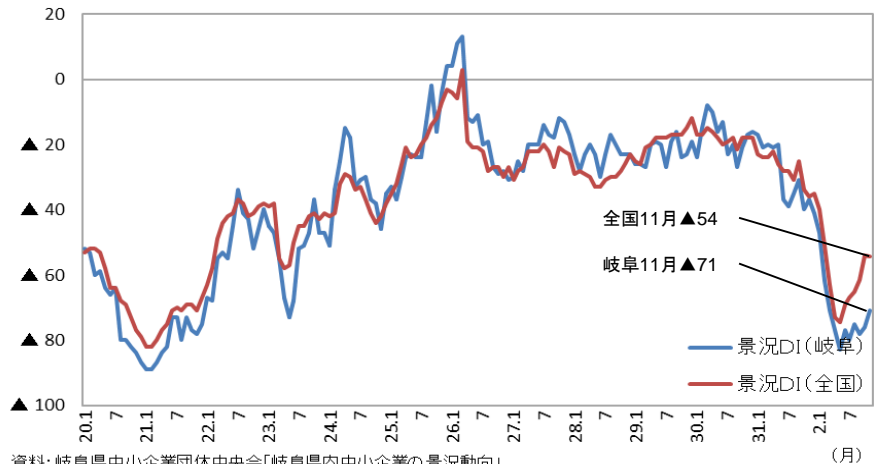
岐阜県及び全国の景気動向指数(一致指数)の推移



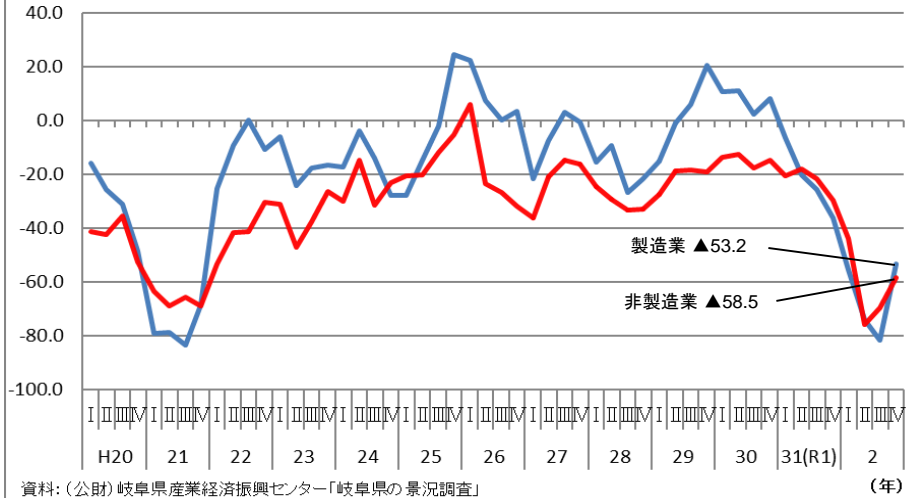
県内企業の景況DI(増加-減少)の推移



岐阜県及び全国の中小企業の前年同月比景況感DI(好転-悪化)の推移



県内企業の売上高DI(増加-減少)の推移

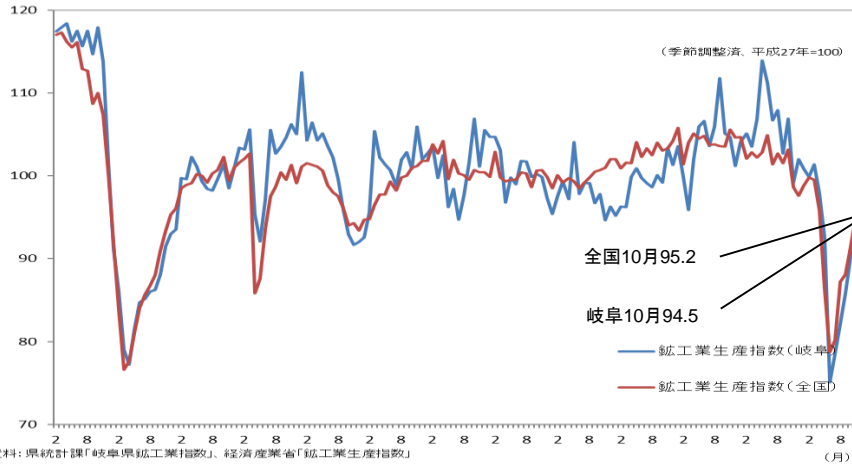


# 製造業

- 10月の鉱工業生産指数(季節調整済)は、94.5で前月比4.8%と上昇した。
- 主な産業の前月比では、化学工業を除き、上昇した。

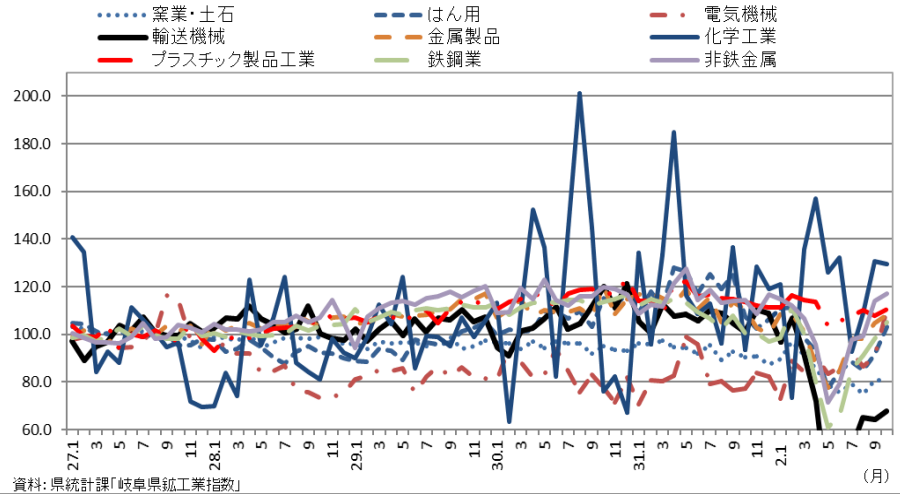
- 10月の主な産業の指数は、化学工業で前月比▲0.9%と低下したものの、電気機械で同21.6%、はん用等機械で同12.8%となるなど、他の産業は上昇した。

鉱工業生産指数の推移



主な産業の鉱工業生産指数

(季節調整済、平成22年=100)



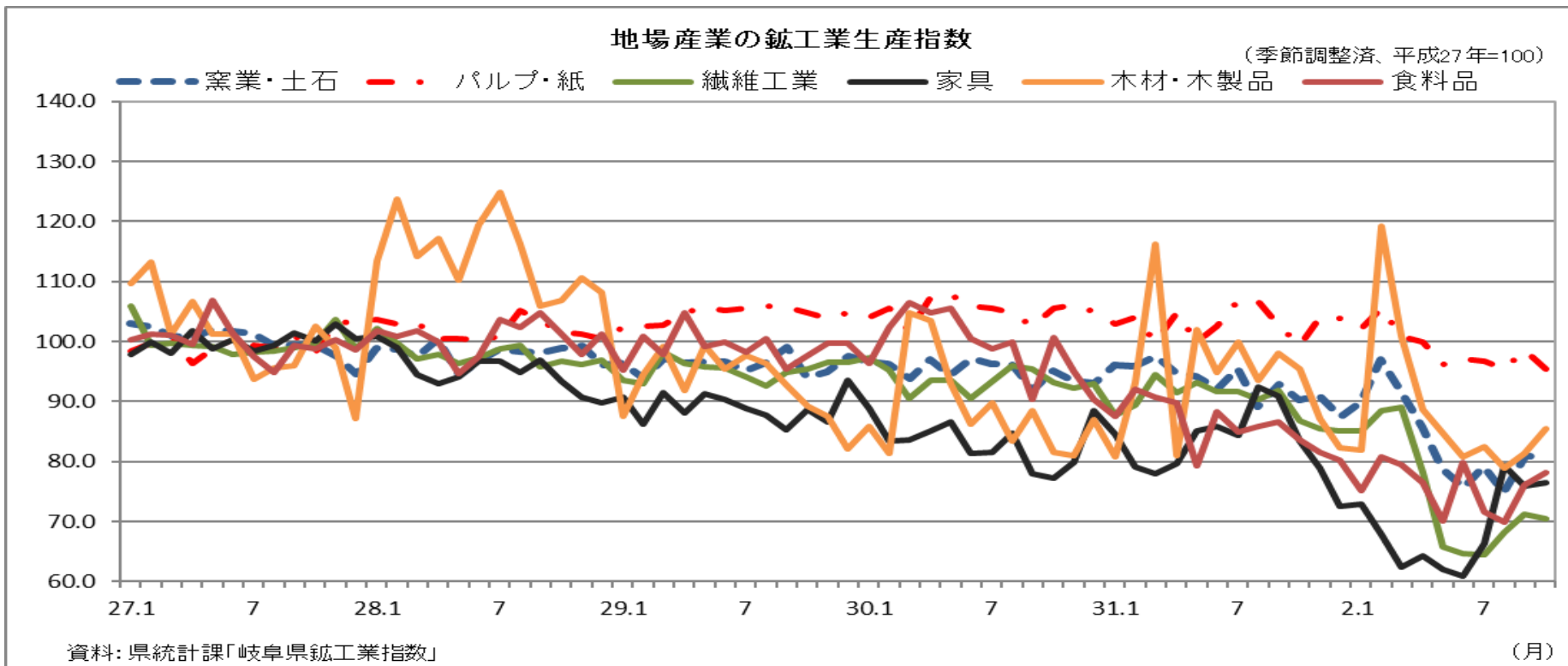
## 現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆ 12月の売上高は、前月比では同程度、前年同月比では増加を見込んでいる。電子材料関係が引き続き堅調であるに加え、自動車関連についても需要が戻ってきたようだ。(輸送用機械)
- ◆ 先月までと同様、中国の好調に牽引される状況が続いている。(輸送用機械)
- ◆ 今のところ、航空機関連部品の回復のめどは立っていない。(輸送用機械)
- ◆ 中国の工場の稼働率は100%で、売上は7割程度まで回復している。(非鉄金属)
- ◆ 生産稼働率は、10月は80%程度であったが、今は90%を超え、100%近くまで回復した。(金属製品)
- ◆ 中国やアジア地域を中心に受注等が回復基調にあるが、国内はまだそれほどの勢いはみられない。(非鉄金属)
- ◆ 業況については、8月から挽回体制に入り、現時点では当初の計画から上振りしている。2月、3月も前年並みと予想している。(プラスチック製品工業)
- ◆ 令和2年10月にあった半導体工場の火災による影響を大きく受けている。(輸送用機械)

## 製造業-2

○10月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、パルプ・紙で前月比▲3.1%、繊維工業で同▲1.1%と低下したものの、木材・木製品で同4.9%、食料品で同2.6%、家具で0.5%、窯業・土石で0.1%と上昇した。



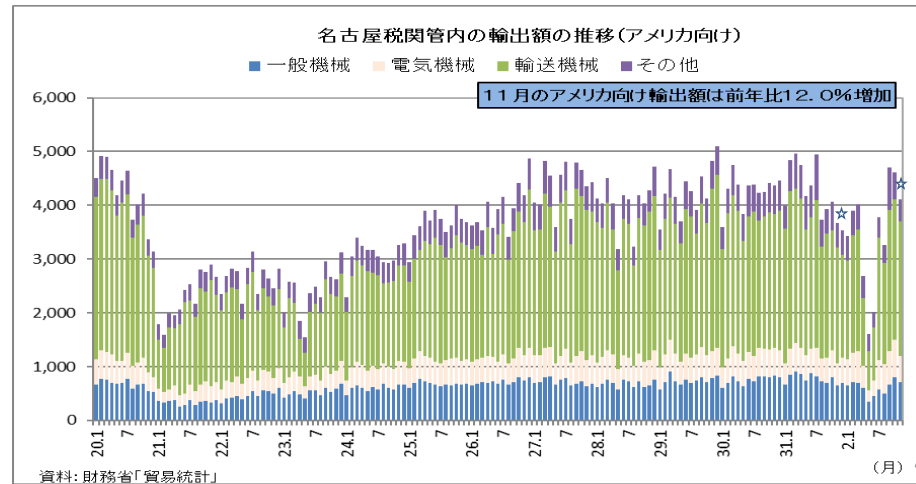
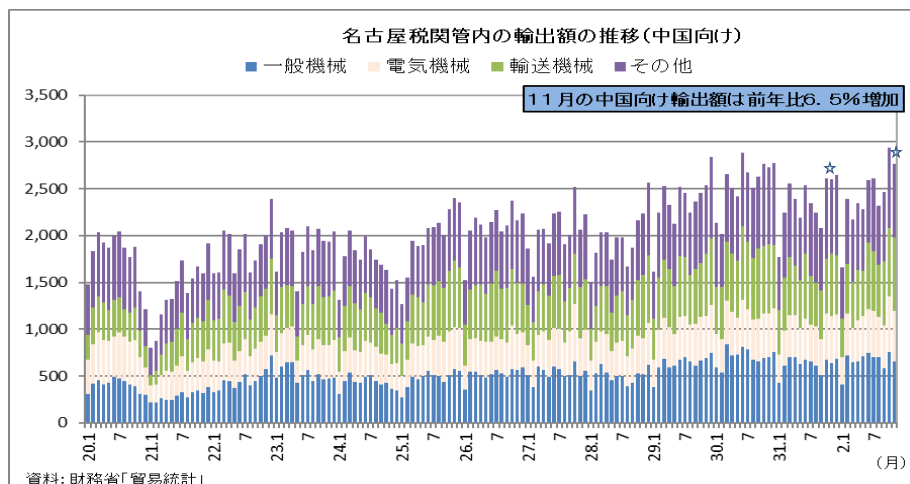
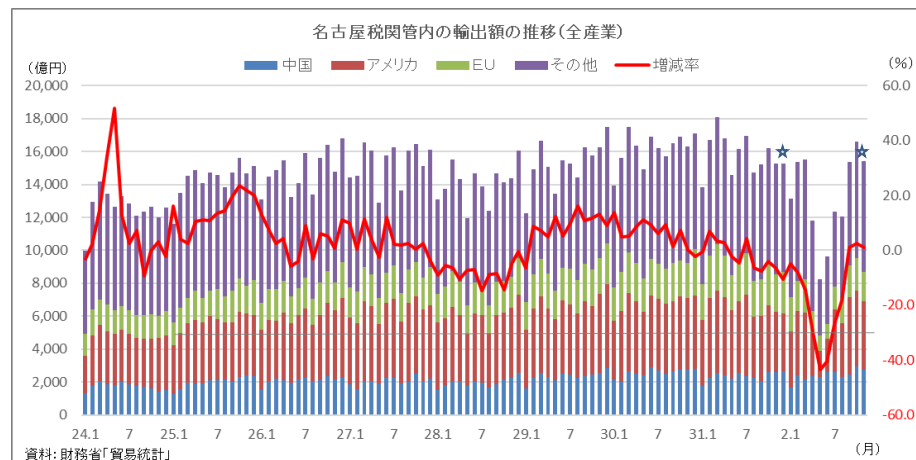
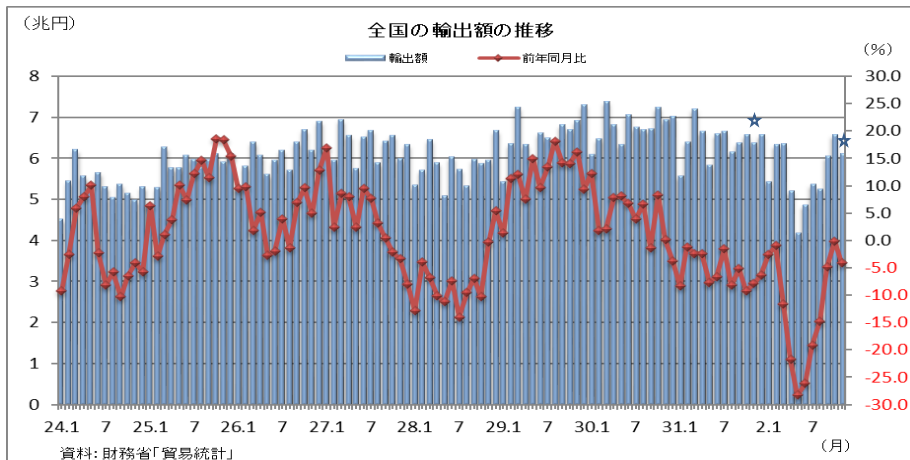
### 現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆ 法人向けは悪化している。その分、個人向けで補っており、秋口から売上げが伸びてきている。(繊維工業)
- ◆ 法人向けは、飲食関係が低調、航空大手向けは全滅するなど大変厳しい状況。一方、個人向けにECサイトを構築し、販売を開始したところ売れ行きが好調である。(窯業)
- ◆ 百貨店向けが不振であるなど、国内需要は縮小しているが、海外(特にアジア)は堅調。北欧・東欧からも引き合いがある。(刃物)

# 輸 出(名古屋税関管内)

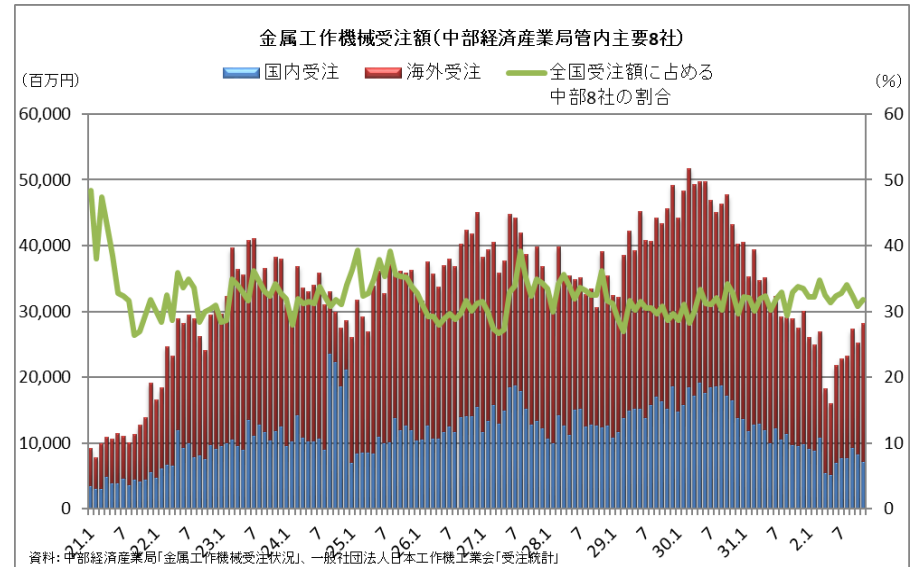
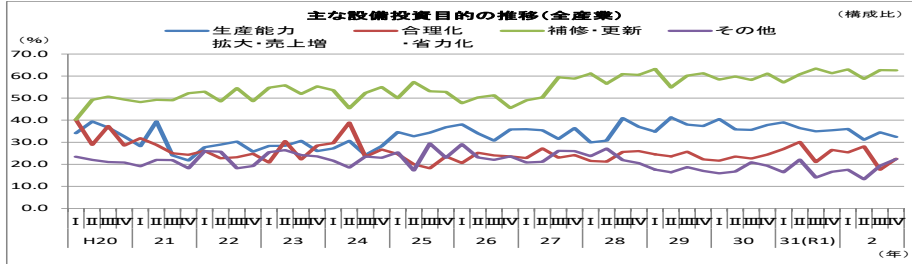
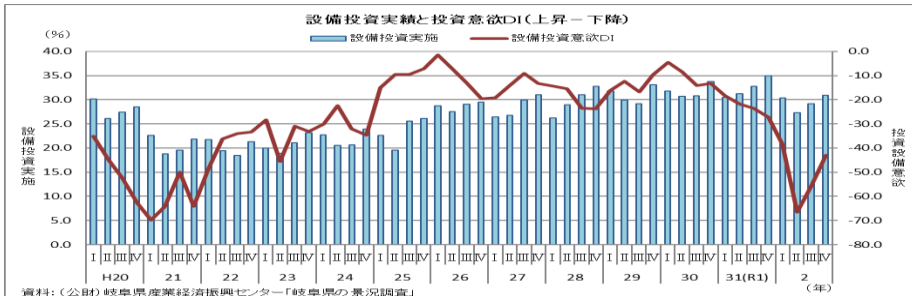
- 11月の輸出額(全国)は、6兆1,137億円と前年同月比▲4.2%と24ヶ月連続で減少となった。
- 11月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆5,424億円と前年同月比1.1%と増加し、3ヶ月連続で前年同月を上回った。
- 中国向けは、全体で前年同月比6.5%増加した。その内、輸送用機械で前年同月比19.2%、電気機械で同6.8%、一般機械で同3.0%増加した。
- アメリカ向けは、全体で前年同月比で12.0%と増加し、3ヶ月連続で前年を上回った。その内、電気機械で前年同月比20.7%、輸送機械で同15.5%、一般機械で同10.0%増加した。



# 設備投資

○10－12月期の設備投資実施は前期比1.7ポイント上昇、設備投資意欲DIも同12.9ポイント上昇。設備投資実施見通しの目的別では、「生産能力拡大・売上増」で前年同月比▲2.1ポイント「補修・更新」で、同▲0.1ポイント低下し、「合理化・省力化」で同5.0ポイント上昇した。

○11月の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比2.3%と25ヶ月ぶりに前年を上回った。内訳は国内受注では同▲25.5%と24ヶ月連続で前年を下回ったものの、海外向けは同17.2%と2ヶ月ぶりに前年を上回った。



## 現場の動き

(※新型コロナウイルス関連はP6にも掲載)

- ◆ 電子材料向けなど、堅調な業界向けの製造設備投資については積極的に進めていくが、投資内容は更なる精査をしながら進める。(輸送用機械)
- ◆ 今後、建物関係の投資は予定していないが、設備は随時更新していく予定。(電気機器)
- ◆ 新棟の建設を予定している。機械も随時更新している。(非鉄金属)
- ◆ 工場の統合を予定しており、計画段階である。(非鉄金属)
- ◆ 生産性向上に向けて、設備投資を予定している。(刃物)
- ◆ メンテナンスのみ実施し、新規投資の予定はない。(木工)



## 製造業関係における新型コロナウイルスの影響について

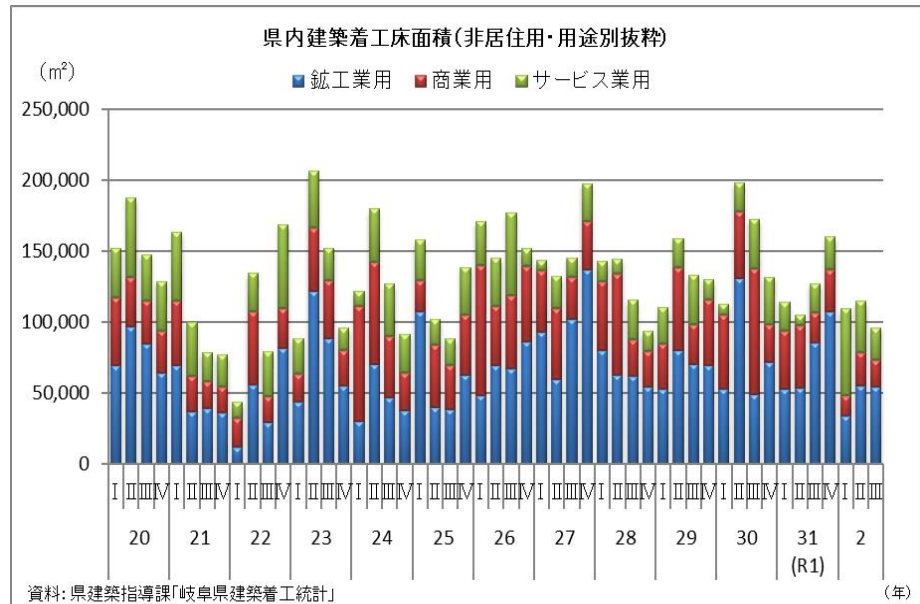
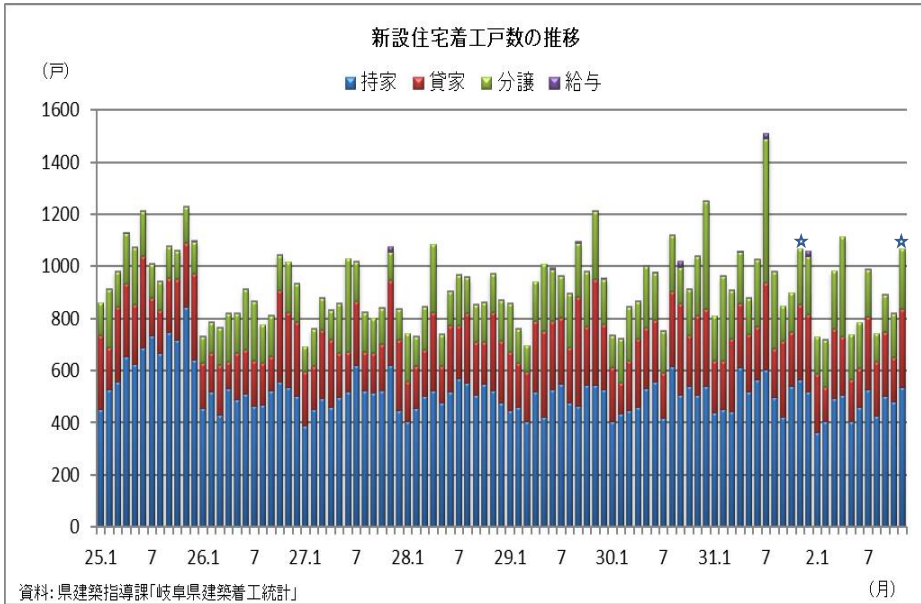
- ◆ 第3波の中、繁忙期に入ってきているので、社内で感染者を出して生産ラインがストップしないよう、今まで以上に社員を首都圏をはじめとする都市部に出張させないようにするなど、感染防止対策に力を入れている。(輸送用機械)
- ◆ 国内受注については、自動車関係は戻ってきているが、工作機械関係は戻っていない。このため、現在の稼働率は自動車関係は100%に近いが、工作機械は60%程度である(電気機械)
- ◆ 新型コロナウイルス感染症による海外の経済情勢に大きく影響を受けている。中国では建設機械、自動車ともに好調である一方、欧米での売上は減少している。(非鉄金属)
- ◆ 海外の工場との行き来ができなくなっているため、指導や技術指導ができない。ただ、現地に工場長もおり、しっかりやってくれている。(非鉄金属)
- ◆ 自動車部品製造は取引先が好調で大きく売上が伸びしており、受注が多く入ってきている(非鉄金属)
- ◆ 工場は100%稼働している。(非鉄金属)
- ◆ 自動車部品関連はメーカーによって、回復の度合いが大きく異なっている。(非鉄金属)
- ◆ 中国の建設機械メーカーは来年も高レベルの生産が見込まれており、安定した受注が見込まれる。(非鉄金属)
- ◆ 第3波の影響は、今のところ受けていない。(非鉄金属)、(金属製品)
- ◆ 業況は、秋から更に落ち込んでいる。設備投資もできる状況ではない。(繊維工業)
- ◆ これまで営業活動がストップし、新規受注が大幅に減ったため、それ以前に受注した仕事でつないできたが、ここにきて出荷がなくなってきた。(窯業)
- ◆ 刃物業界でも過去最高益の企業もあると聞く一方で、休業している企業もあり、業績はまだら模様。(刃物)
- ◆ 木工業界でも、売上が伸びしているところとそうでないところがある。当社としては引き続き海外も含めたBtoCに力を入れていきたい。(木工)
- ◆ GoToキャンペーンで、国内旅行者向けの土産物が少し回復したと思うが、「しいて言えば」というレベルであった(紙)
- ◆ おうち需要に対応する商品を新たに開発し、その商品の取り扱いが中京圏から関西圏にまで広がったり、お酒のおつまみ商品をリカーコーナーに陳列してもらったりと、新たな動きをしている(食品製造)

# 住宅・建築投資

○11月の住宅着工戸数は、前年同月比0.1%と前年同月を上回った。

○持家で前年同月比▲5.2%と減少したものの、分譲で同8.3%、貸家で同4.2%と増加した。

○7-9月期の非居住用の建築着工床面積は、サービス業用で前年同期比9.8%と増加したものの、鉱工業用で同▲36.2%、商業用で同▲10.8%と減少したことから全体としては同▲24.6%と減少した。



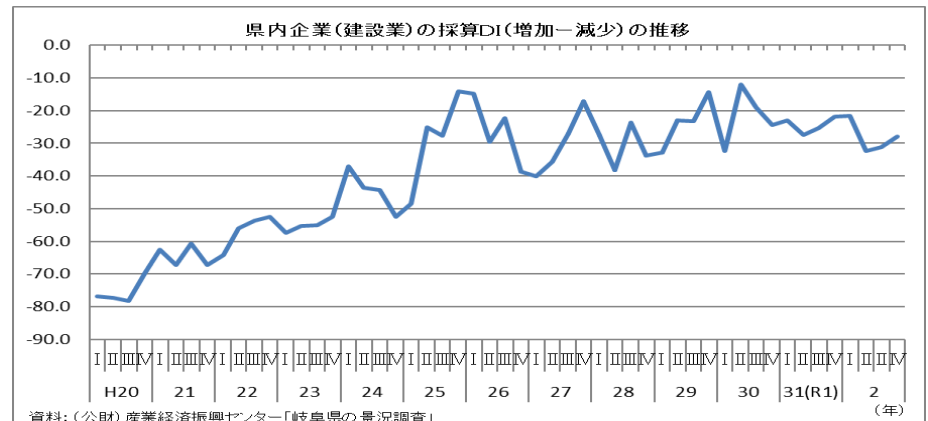
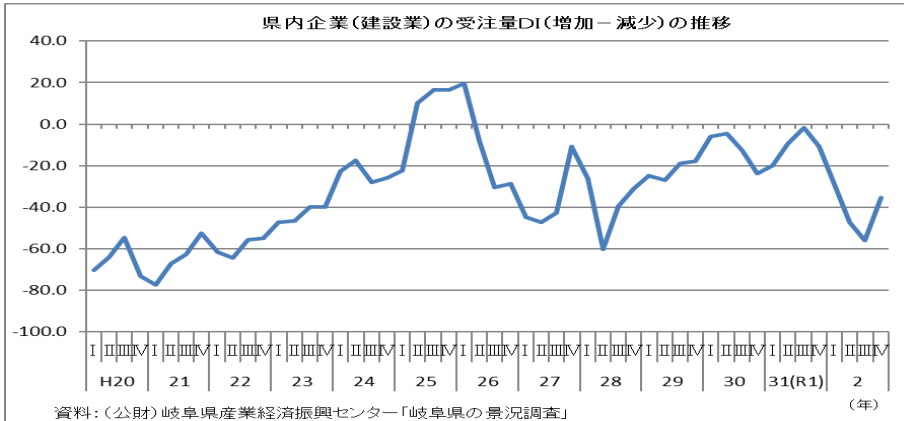
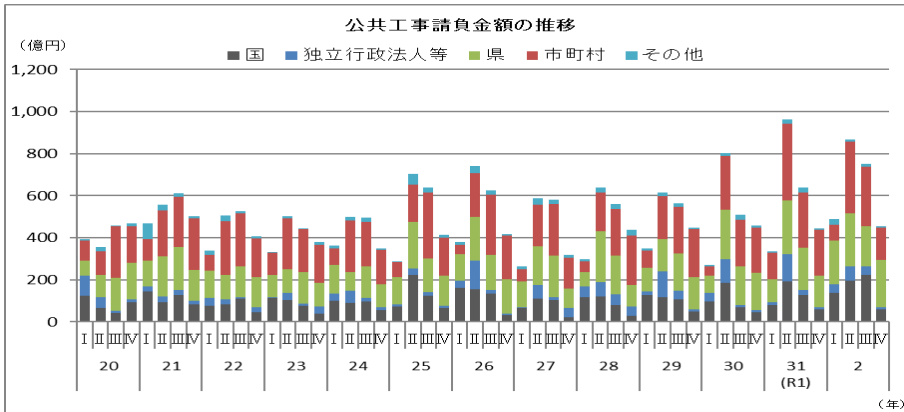
## 現場の動き

- ◆ 新型コロナウイルス感染症による業績への影響はあまりないが、今後の状況を懸念している(木材加工)
- ◆ 第3波により愛知県内への営業がなかなかできない。(木材加工)
- ◆ 今後、オンラインでの商談が増えるの見込んでいます。リアルからオンラインへの流れが加速する。(住宅建築)
- ◆ 令和3年あたりから、モデル住宅のウェブやVR(仮想体験)が始まりだす傾向にある。(木材加工)
- ◆ 材が不足している。さらに今後は積雪により出材量も少なくなると思われる。(組合)



# 公共工事

- 10-12月期の発注者別の公共工事請負金額は、市町村で前年同期比▲30.7%と減少したものの、県で同49.8%、独立行政法人等で同18.6%と増加するなど、全体で同2.1%増加した。
- 県内建設業の10-12月期の受注量DIは前期比20.7ポイントと上昇、同採算DIも同3.7ポイントと上昇した。



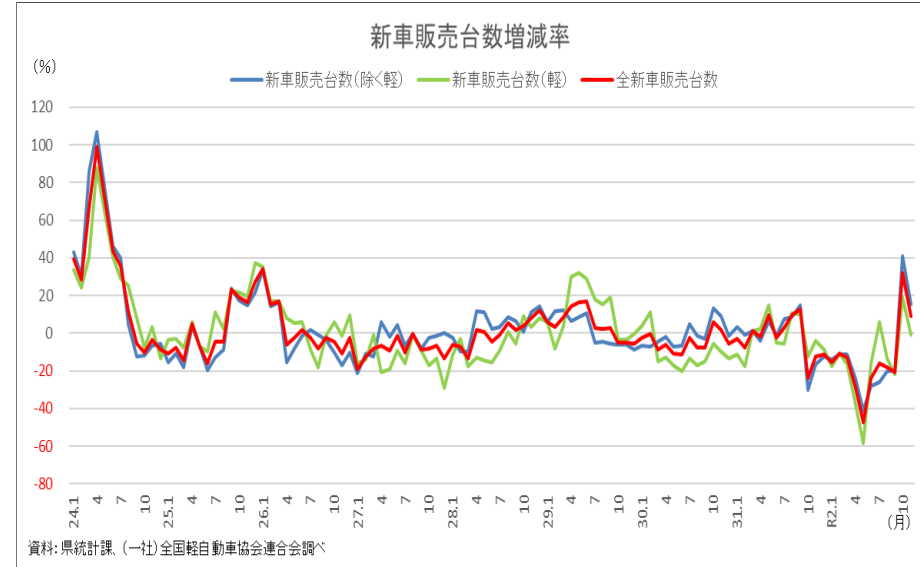
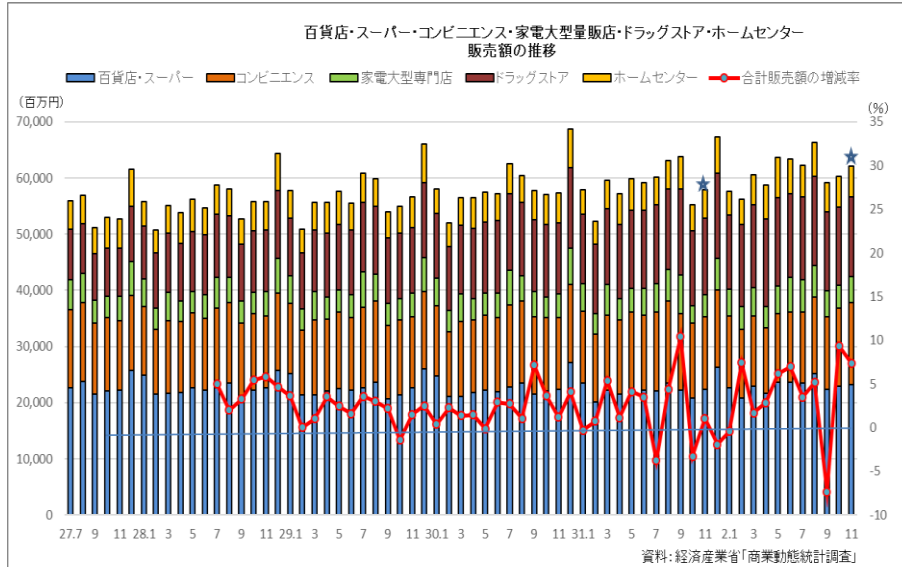
## 現場の動き

- ◆ 例年第4四半期は、公共事業の発注が増えるが、新型コロナウイルス感染症の影響で、本当に発注が進むのか心配している。
- ◆ 民間建築工事については、新規案件が非常に停滞している。(以上、建設)

# 個人消費(流通・小売)

○11月は家電大型専門店が前年同月比19.2%、コンビニで同12.1%、ホームセンターで同9.0%、百貨店・スーパーで同4.2%、ドラッグストアで同3.9%と増加し、全体では同7.4%と増加した。

○11月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比15.4%と2ヶ月連続で前年同月を上回ったが、軽自動車は同▲0.7%と前年同月を下回った。  
○合算では同9.3%と、2ヶ月連続で前年同月を上回った。



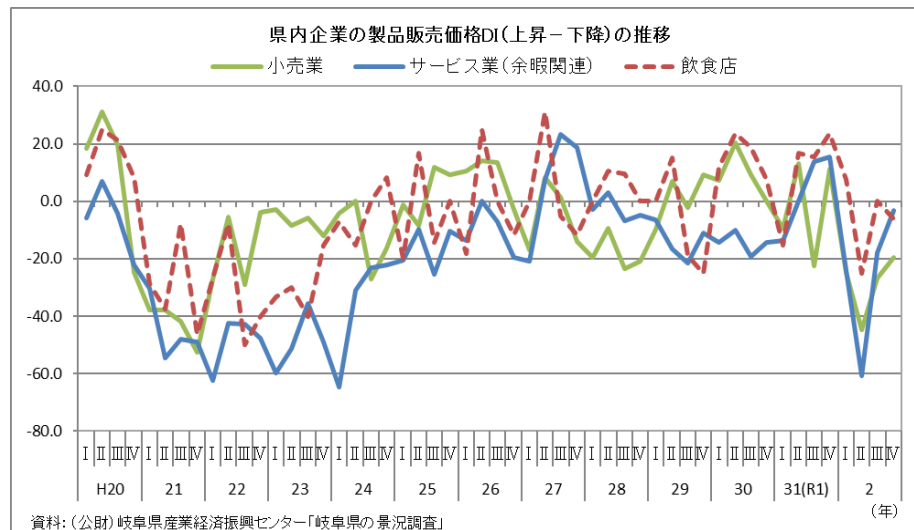
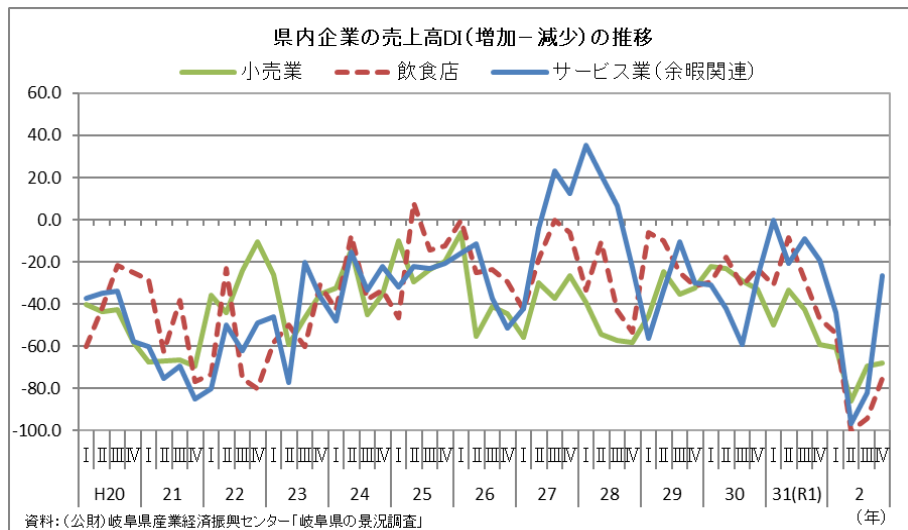
## 現場の動き

- ◆ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外出を控える方が多く、来場者は少なかった。また、大晦日に大雪が降ったことも来場者の伸びなかった要因と考えている。(岐阜市内大型商業施設)
- ◆ 客数は前年比で減少、売上は前年比で増加、この傾向が続いている。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により帰省しなかった方が多かったことから、大勢で食べるようなものは売れなかった。(岐阜市内大型スーパー)
- ◆ 年末は、お客様の帰宅が早いなど、明らかに例年と違った。また、想定はしていたが、お正月用の大皿の寿司桶の注文は大きく落ち込んだ。(大垣市内大型商業施設)

## 個人消費(流通・小売)ー2

○10ー12月期の売上高は、サービス業(余暇関連)で前期比55.4ポイント、飲食店で同19.1ポイント、小売業で同1.5ポイント上昇した。

○同じく販売価格DIは、サービス業(余暇関連)で前期比14.5ポイント、小売業で同7.2ポイント上昇し、飲食店で同▲6.2ポイント低下した。



### 現場の動き

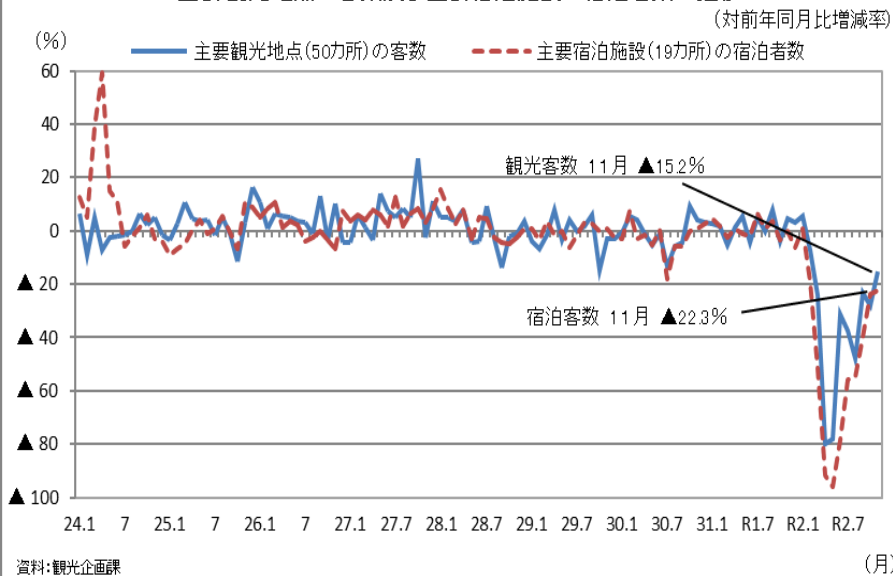
- ◆ 衣料品店は前年同月比▲25%。GoToキャンペーンの中止等で、外出機会が減ったため、購買意欲も低下していると思われる。商店街のイベントなどの再開後は、コロナ以前まで戻りつつあったが、12月に入り、新型コロナウイルス感染症の再拡大により売上は減少傾向にある。(柳ヶ瀬商店街)
- ◆ 日用品・雑貨店の売上は前年同月比▲20%。正月用品などが自粛の影響で動かなかった。商店街でイルミネーションの装飾を実施したが、自粛モードで見学客もまばらであった。(大垣市商店街)
- ◆ 酒店の売上は減少、新型コロナウイルス感染症の再拡大で、毎年行っている店独自のイベントも中止になった。また、お歳暮の売り上げも年々減少しているが、新型コロナウイルス感染症の影響で今年は特に減少した。(多治見市商店街)
- ◆ 11月、12月は巣ごもり需要で大型テレビや最新エアコンが好調だったが、1月、2月は、どん底になると予想をしている。(高山市商店街)

# 観光

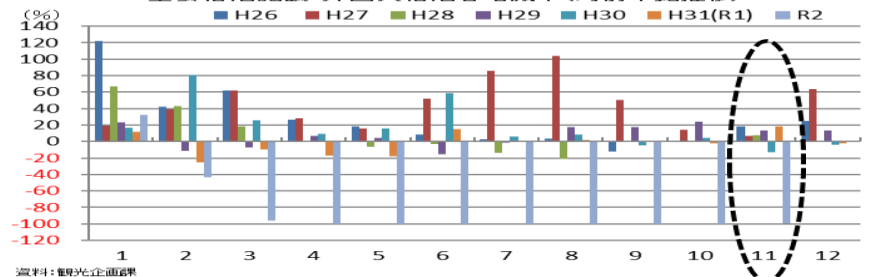
○主要観光地における11月の観光客数は、前年同月比で▲15.2%と10ヶ月連続で前年同月を下回った。主要宿泊施設における宿泊者数は、前年同期比で▲22.3%の減と10ヶ月連続で前年同月を下回った。

○11月の主要観光施設における外国人宿泊者数は、前年同月比で▲99.6%と大幅な減少が続いており、10ヶ月連続で前年同月を下回った。

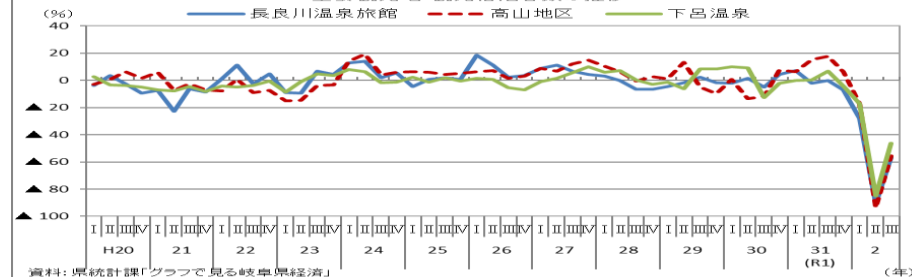
主要観光地点の客数及び主要宿泊施設の宿泊者数の推移



主要宿泊施設 外国人宿泊客増減率(対前年比推移)



主要観光地 観光宿泊客数の推移

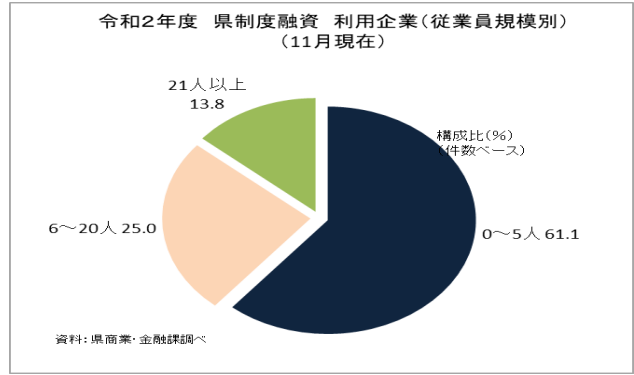
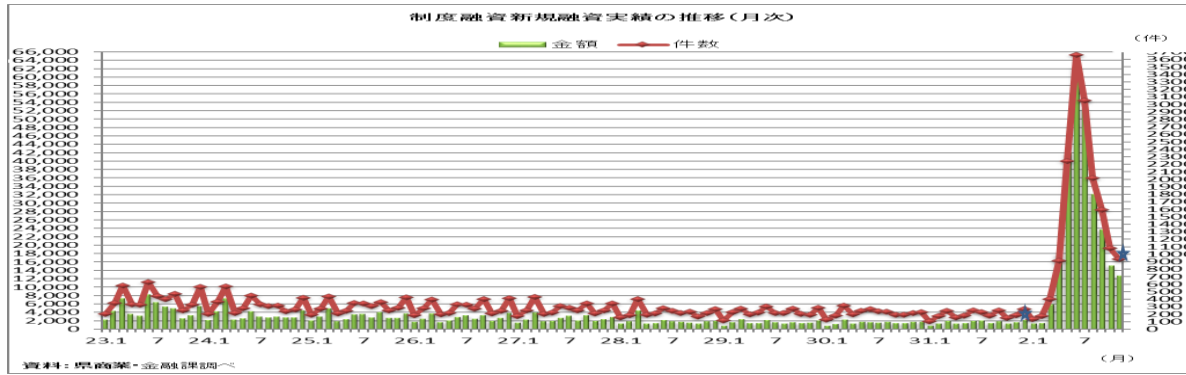
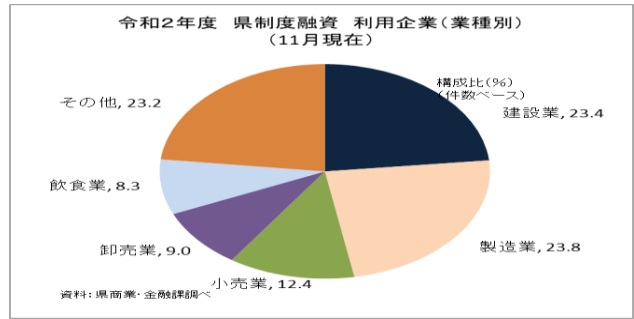
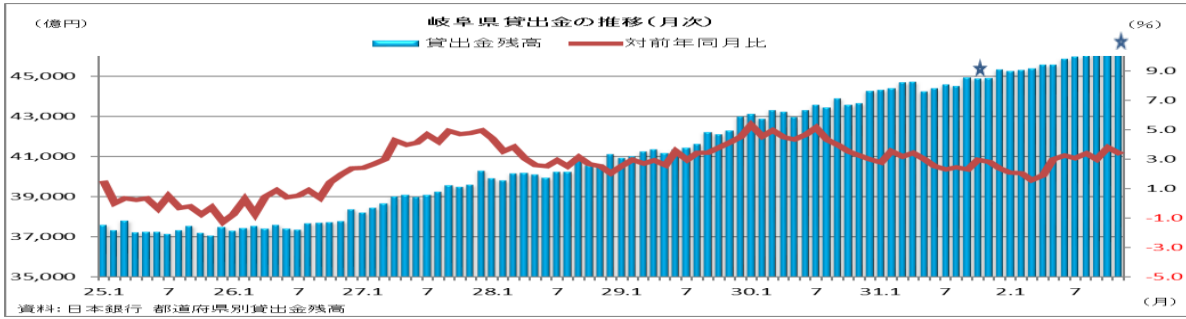


## 現場の動き

- ◆大人数での忘年会、新年会が無い。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆大阪、北海道、東京からの個人客のキャンセルが増加し、新規予約も鈍化している。(岐阜市内の宿泊施設)
- ◆第3波の影響でツアーもキャンセルばかり。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆GoToトラベルの一時停止によりキャンセルもあるが、利用無しで宿泊される方もいる。(多治見市内の宿泊施設)
- ◆GoToトラベルの効果で宿泊単価が増加し、売上高は増加した。(奥飛騨の宿泊施設)
- ◆一部のお客さんに気の緩みが見られる。(下呂市内の宿泊施設)

# 資金繰り

○11月の岐阜県貸出金残高は、4兆6,453億円で前年同月比3.4%とプラス基調が続く。  
 ○11月の制度融資実績は、金額が12,743百万円で前年同月比771.6%と増加した。  
 件数は937件で同501.1%と増加した。  
 ○従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の61.1%を占めている。



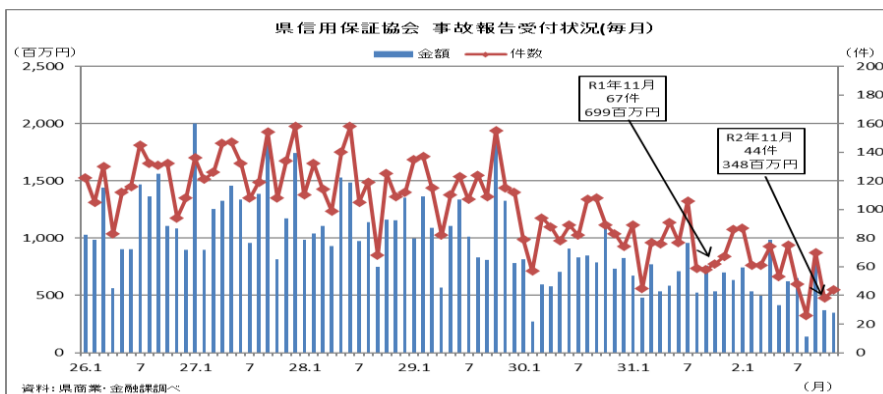
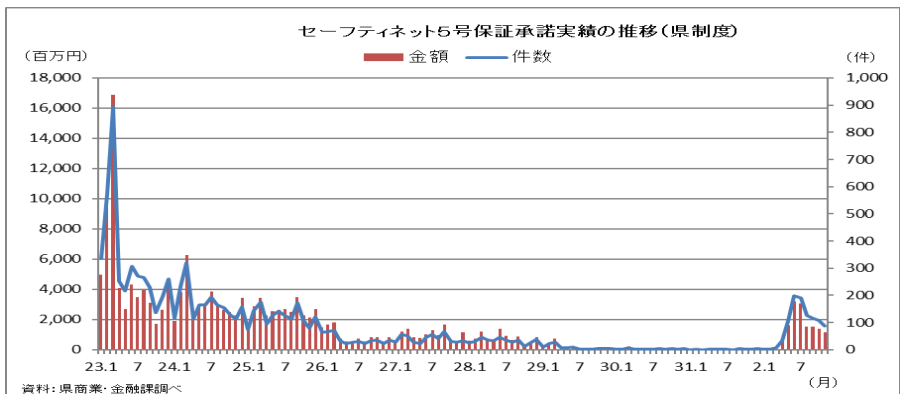
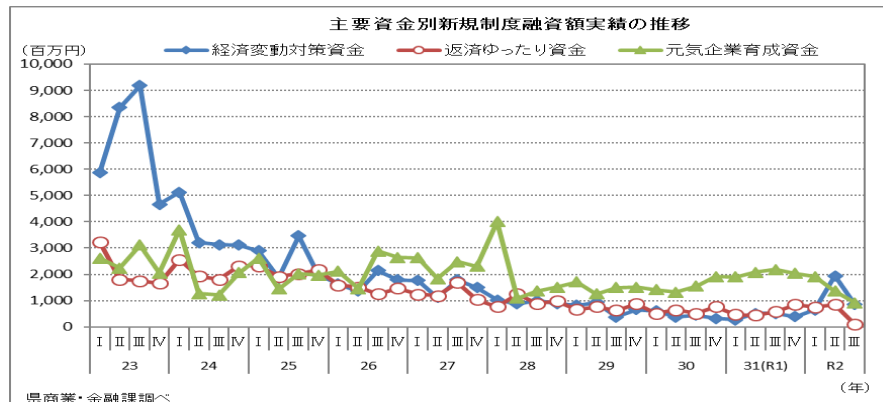
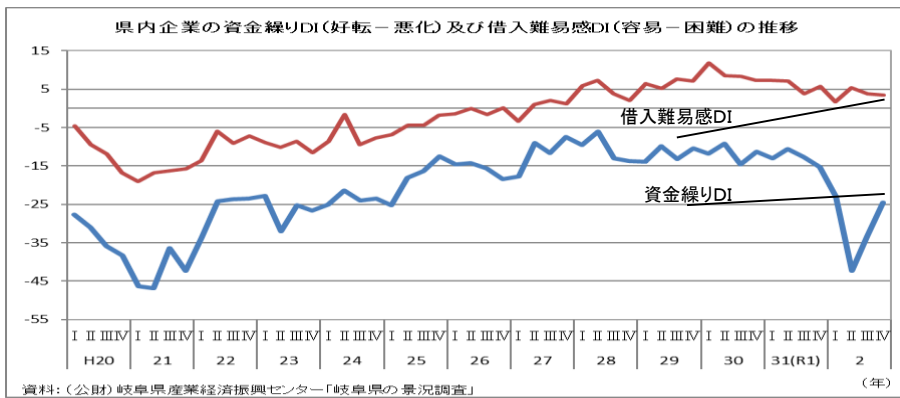
## 現場の動き

- ◆ 年末ということで、実質無利子・無担保の融資の申込みが増えると思っていたが、想定よりも落ち着いた印象。
- ◆ 手元資金を厚くしようと、予備的に借りている事業者も見受けられる。
- ◆ 引き続き、全体的に設備投資は延期の傾向にあるが、一部ではこれまでの新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた設備投資を再開させる動きもみられる。(以上、金融)



# 資金繰り-2

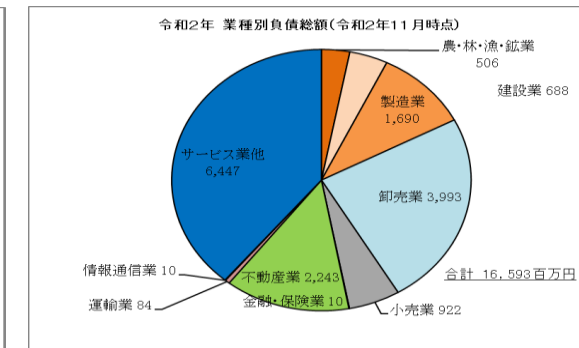
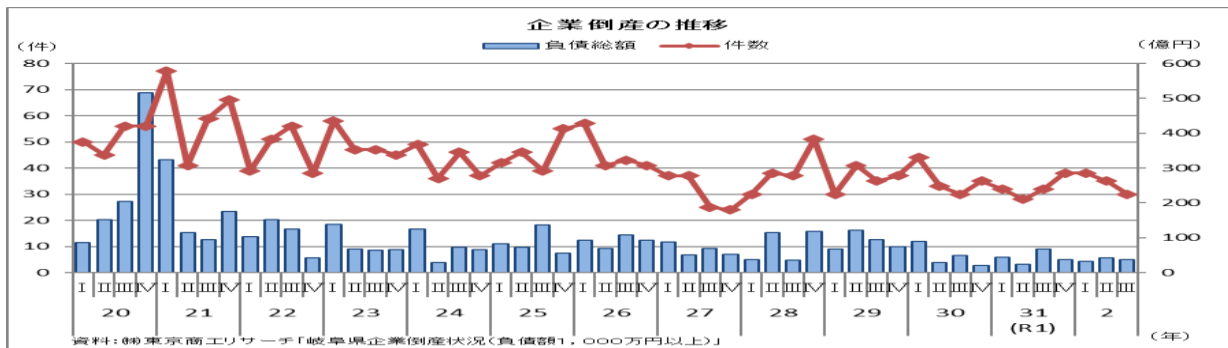
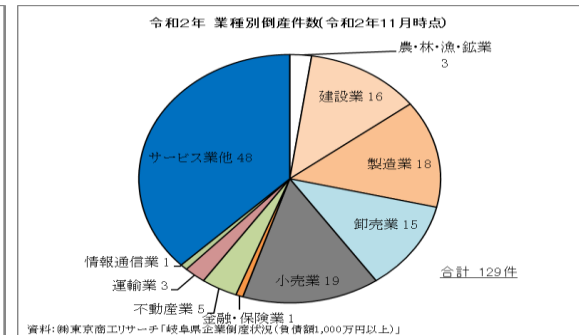
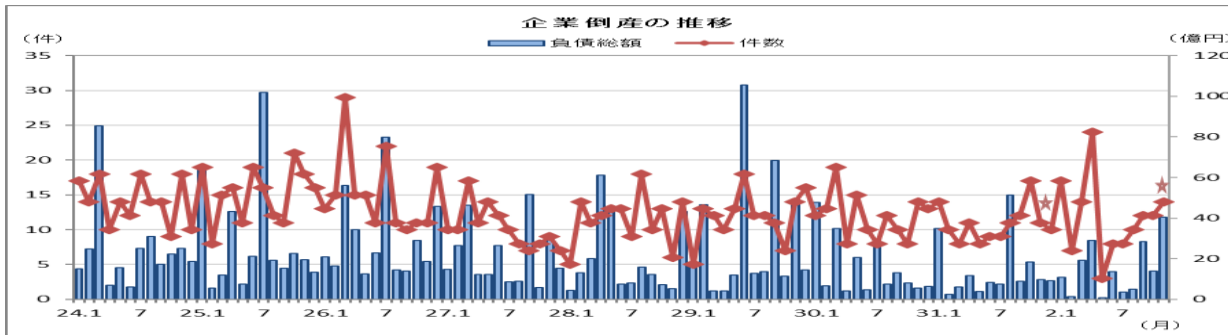
- 10-12月期の資金繰りDIは▲24.6で、前期比8.9ポイント改善した。同借入難易感DIは3.5%で、同▲0.3ポイント悪化した。
- 7-9月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比66.6%と6期連続で増加、返済ゆったり資金で同▲84.9%と5期ぶりに減少、元気企業育成資金で同▲58.1%と2期連続で減少となった。
- 11月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が88件で前年同月比86件増加、金額は1,136百万円で同1,101百万円増加した。
- 11月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は44件で前年同月比▲34.3%と減少し、金額も348百万円で同▲50.3%と減少した。



# 倒産

○11月単月の倒産件数は前月比2件増の14件、負債総額は前月比2,660百万円減少の4,045百万円となった。

○1月から11月までの累計倒産件数は129件となり、前年同期の120件から9件増加。累計負債総額は16,593百万円となり、前年同期の16,280百万円から313百万円減少で推移した。



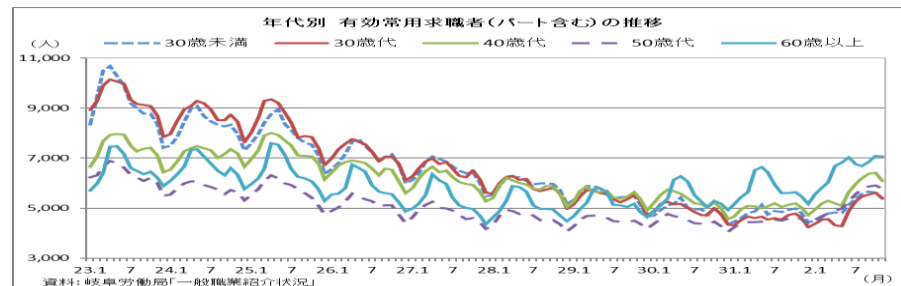
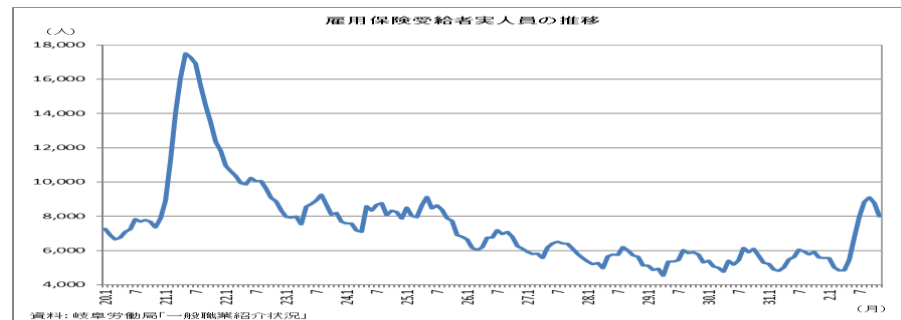
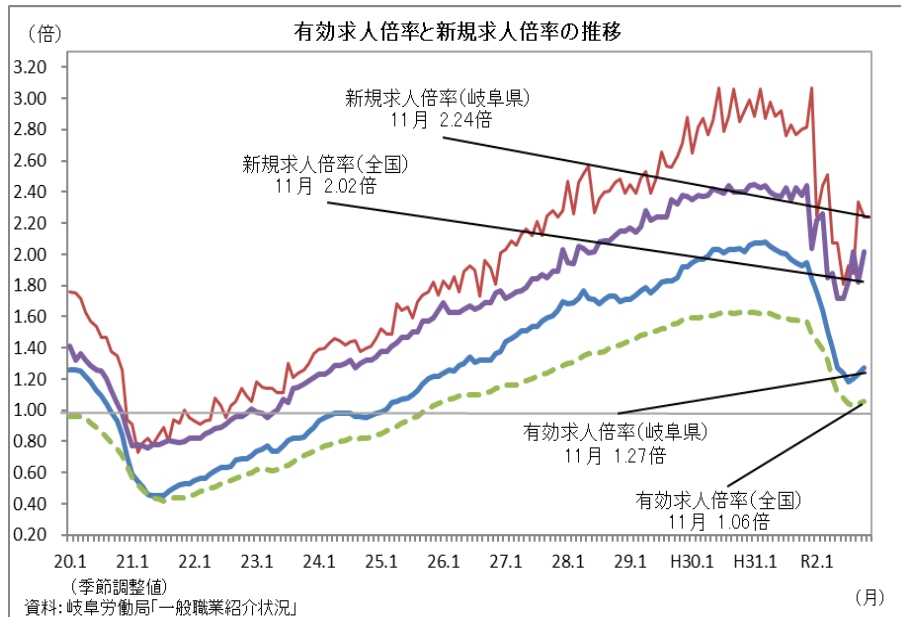
## 専門機関の分析(東京商工リサーチ)

- ◆ 感染拡大防止との難しい舵取りが続くなかで、「新型コロナウイルス」関連破たんは引き続き予断を許さない状況が続いている。
- ◆ 感染再拡大を受けて各地で自粛要請などが広がりつつあり、年末の書き入れ時を前に経営体力の乏しい飲食業者など、消費関連の中小零細企業への影響が危惧され先行きの不透明感が増している。「新型コロナウイルス」の感染拡大は第3波に入っている。冬の到来もあり感染対策は難しくなっている。感染者の重症化・死亡事例が急増しているのは、企業の存続可否の観点からも懸念の対象である。

# 雇用

- 11月の有効求人倍率は1.27倍と、前月比0.04ポイントと3ヶ月連続で上昇。
- 11月の新規求人倍率は前月と同じく、2.24倍となった。

- 11月の雇用保険受給者人員は、前月比▲8.8%と減少した。
- 年代別有効常用求職者は、6ヶ月連続で前年同月比で増加した。



## 現場の動き

- ◆ 売上の好調に支えられ仕事量も順調となり、残業や休日出勤も増えている。(輸送用機器)
- ◆ 大きく人材の不足感を感じている。中途採用や派遣職員で対応している。(非鉄金属)
- ◆ 人材についてはやや不足感を感じている。中途採用で補っている。(金属製品)
- ◆ 人材不足との認識があり、現場からの採用申請は30名を超える。(食料品製造)
- ◆ 人材の過剰感があり、社員を交代で休ませている状態。(繊維工業)
- ◆ 人材の過剰感があり、夏ごろから雇用調整助成金を受給し、休業により生産調整を実施している。解雇の話は聞かない。(窯業)
- ◆ 人材派遣会社からの売り込みが大幅に増えた。(建設業)

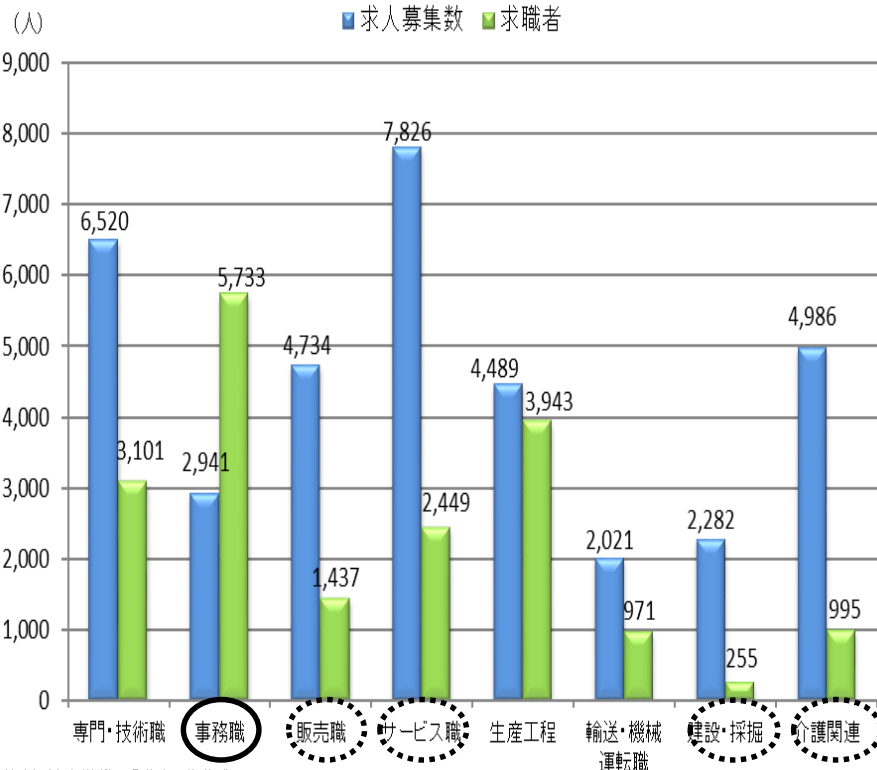
# 雇 用(職業別)

○有効求人倍率は、建設・採掘で8.95倍、介護関連で5.01倍、サービス職で3.20倍、販売職で3.29倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.51倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

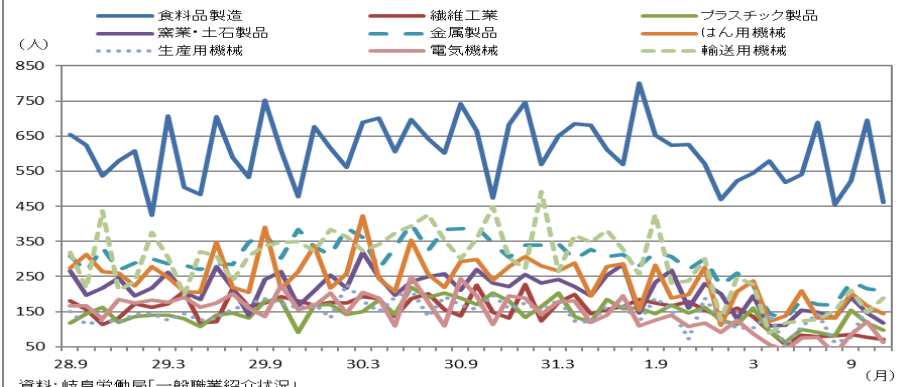
○11月の主要産業別の新規求人数は、生産用機械で前年同月比41.1%と増加したものの、繊維工業で同▲60.7%、電気機械で同▲42.1%、プラスチック製品で同▲33.6%、はん用機械で同▲27.6%、窯業・土石製品で同▲27.3%、食料品製造で同▲26.4%、金属製品で同▲22.9%となるなど、多くの産業で減少した。

11月 職業別有効求人募集数・有効求職者数(常用的フルタイム)

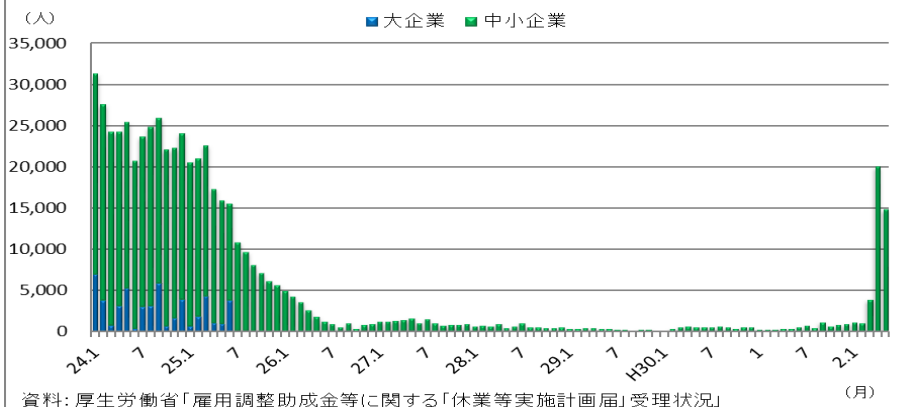


資料: 岐阜労働局「求人・求職バランスシート」

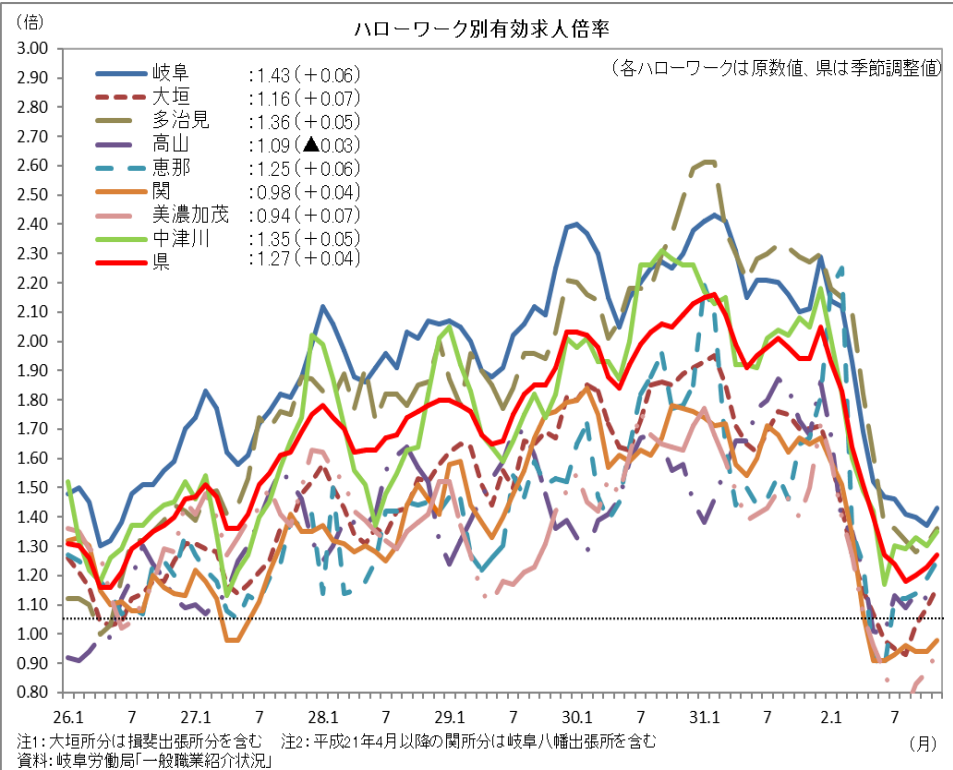
主要産業別 新規求人数(一般+パート)推移



雇用調整助成金の申請状況



# 雇用(地域別)



○11月のハローワーク別有効求人倍率は、関と美濃加茂で1倍未満となっている。前月比では、高山を除く地域で上昇した。

## 現場の動き(前月比)

### <ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

### <ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は減少、求職者数は横ばい。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

### <ハローワーク高山>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク恵那>

- ◆求人者数は減少、求職者数はやや減少。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <ハローワーク関>

- ◆求人者数は増加、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

### <ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数はやや減少。

### <ハローワーク中津川>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

### <窓口の様子>※前月比

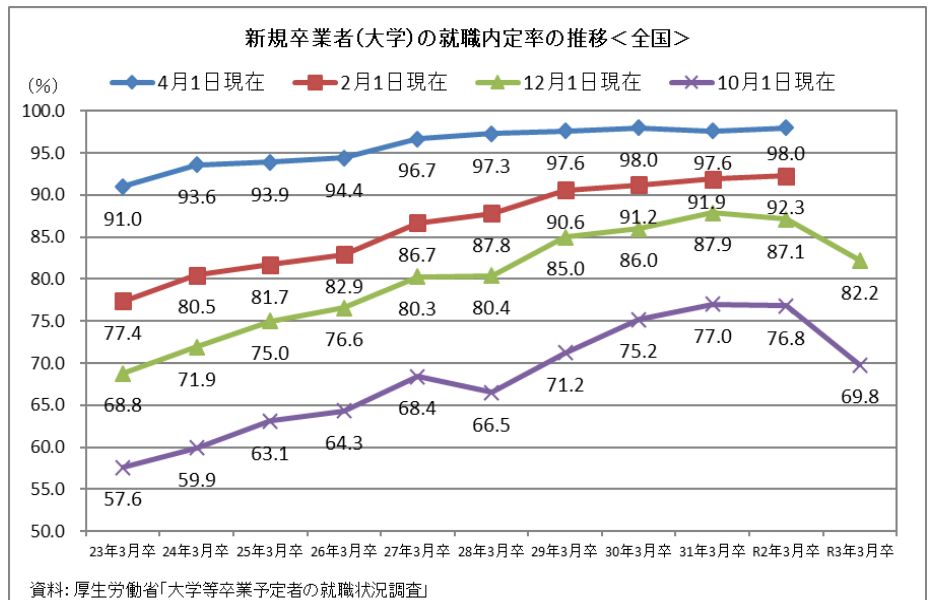
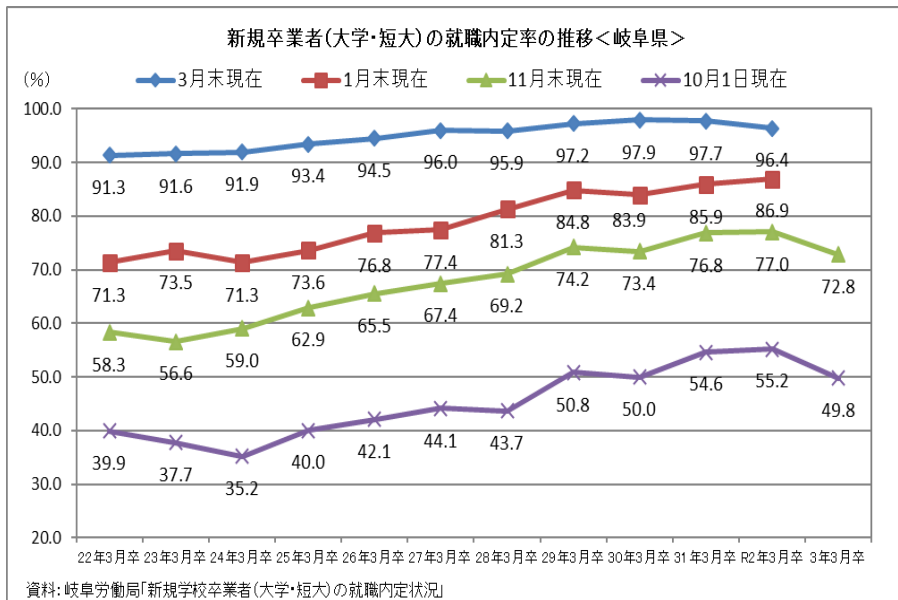
- ◆岐阜、高山、関、中津川で混雑傾向がみられた。



# 雇用(大学・短大新卒者の就職)

○岐阜県の令和2年11月末時点の大学・短大卒業生(令和3年3月卒業)の就職内定率は、72.8%であり、前年同時点と比べ▲4.2ポイントと低下した。

○全国の令和2年12月1日現在の大学卒業生(令和3年3月卒業)内定率は82.2%であり、前年同時点と比べ▲4.9ポイントと低下した。



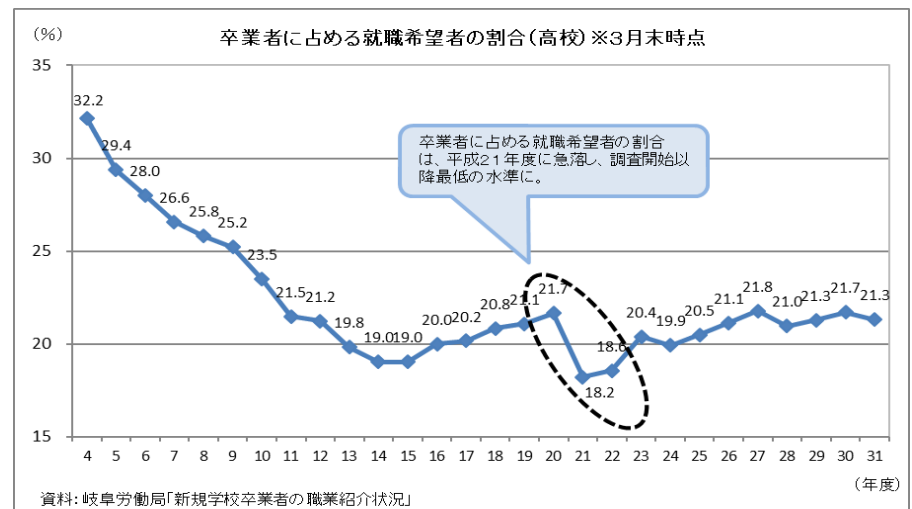
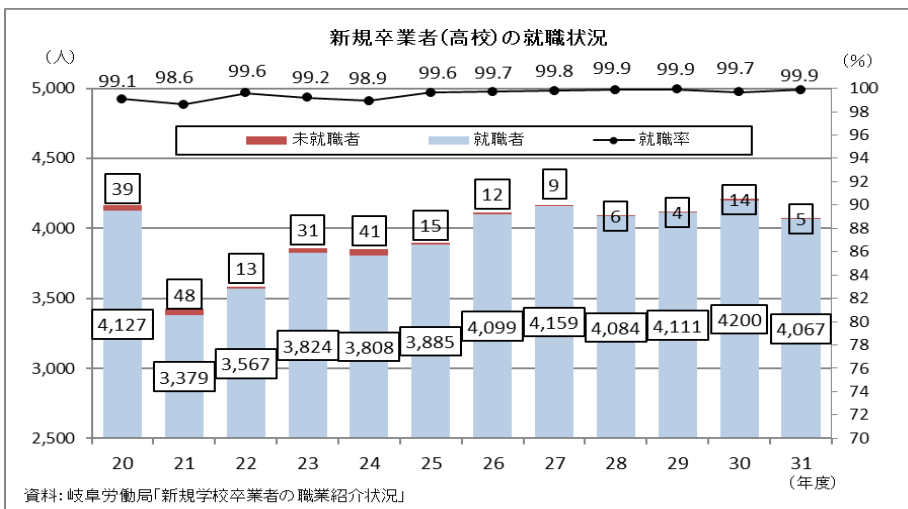
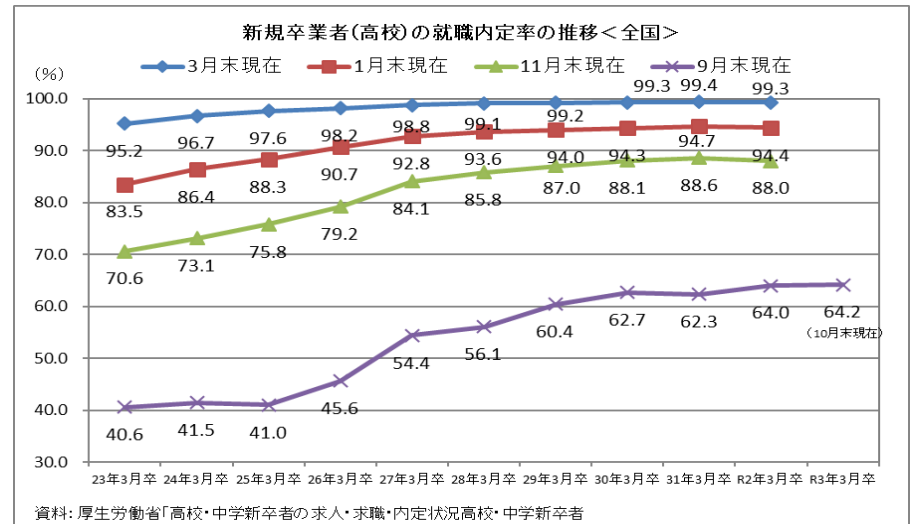
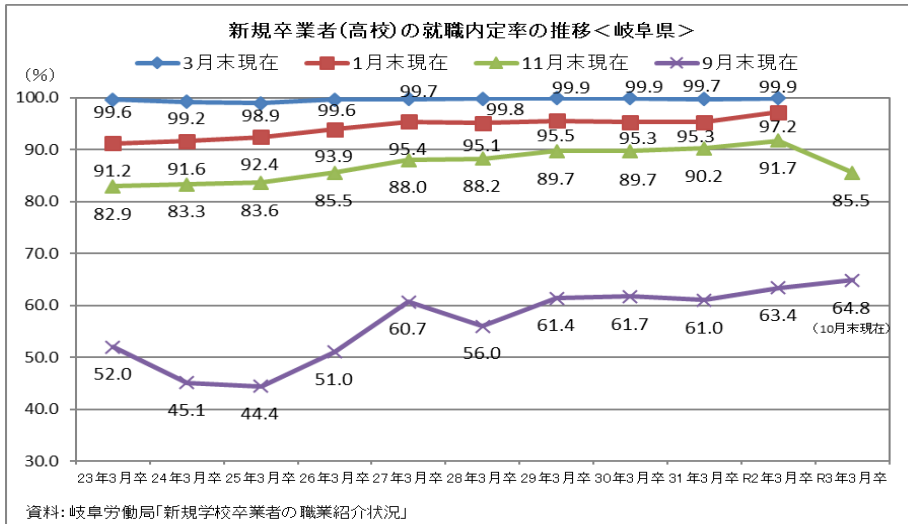
## 現場の動き(2021卒の動きなど)

### <大学へのヒアリング>

- ◆ 12月は11月に比べると、22卒の学生の相談が多くなってきた。相談内容はES対策、面接対策など。
- ◆ 21卒の内定状況は学部にもよるが、8~9割。昨年の数字にかなり近づいてきた。
- ◆ 21卒の状況は7~8割で、昨年より5~10%ほど低い。
- ◆ 2月の合同企業研究会を対面で考えていたが、オンラインに切り替えるか検討中。(以上、岐阜県内大学)
- ◆ 21卒の内定状況は90%ほど、残りの学生はコンタクトの取れない学生が大半で状況がわからない。
- ◆ 授業がオンライン中心のため、大学に来ない学生も多く、21卒の内定状況を掴みづらい。22卒向けのガイダンスを実施しているが、集まりは良くない。相談も例年より少ない。(以上、愛知県内大学)

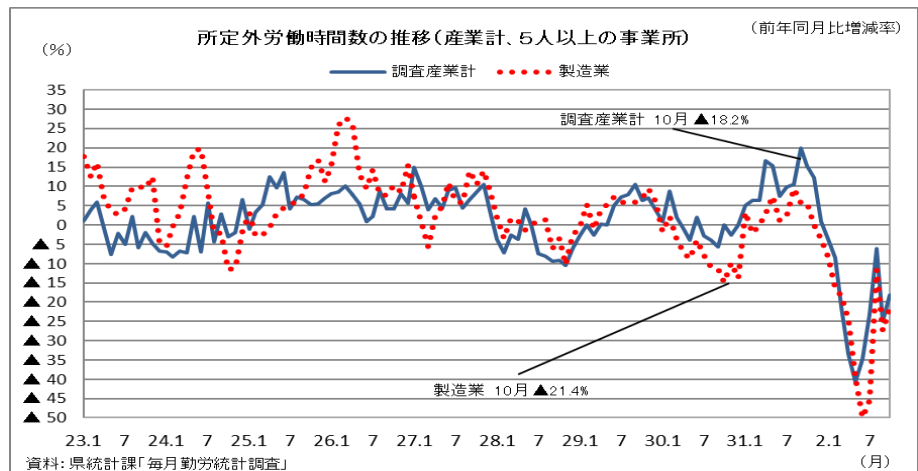
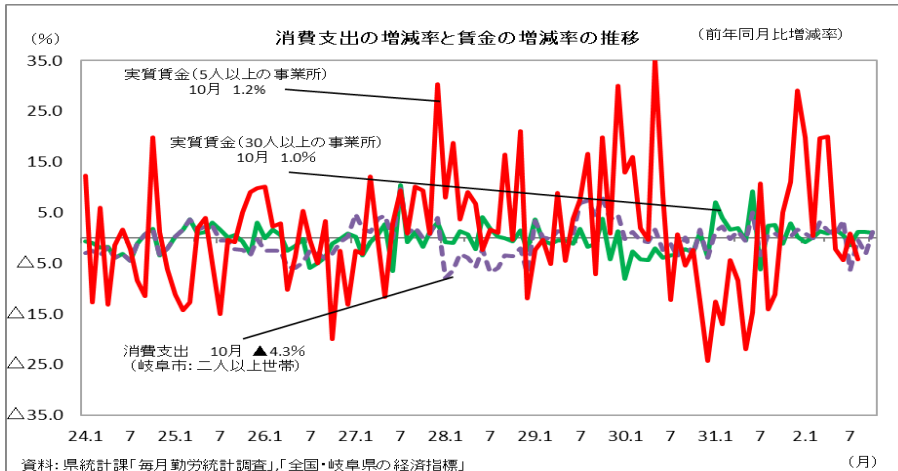
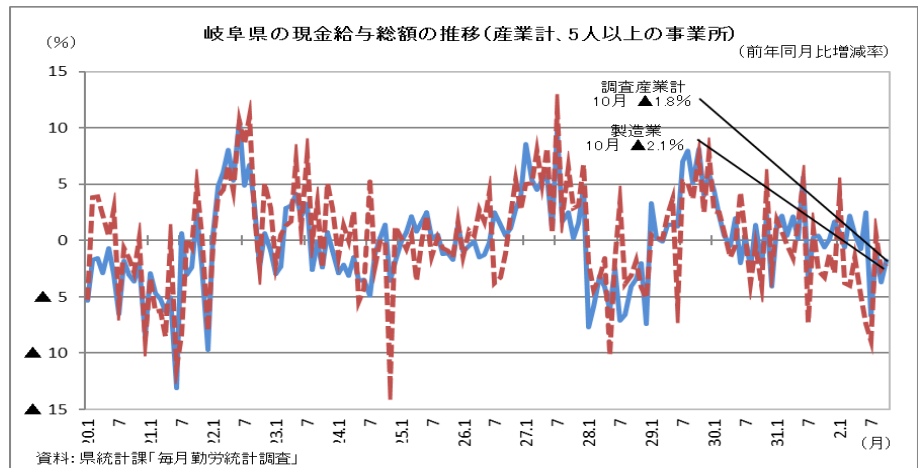
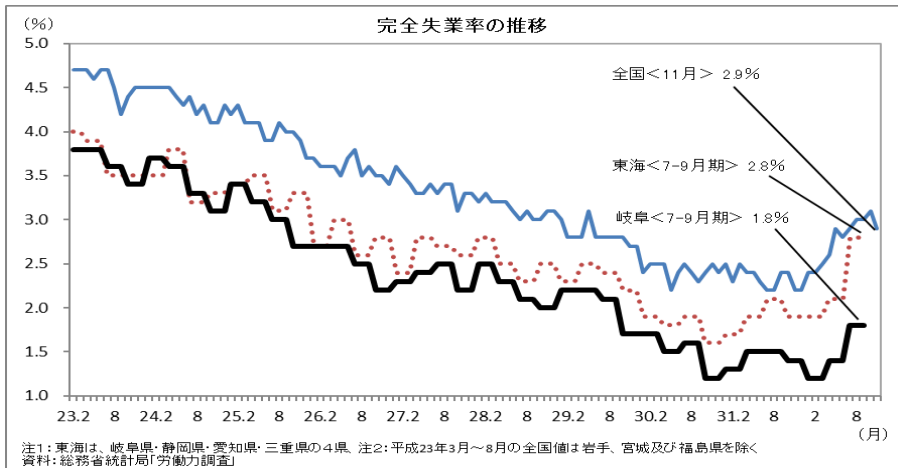
# 雇用(高校新卒者の就職)

- 岐阜県の令和2年11月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は85.5%であり、前年同時期と比べ▲6.2ポイントと減少した。
- 全国の令和2年10月末時点の高校卒業者(令和3年3月卒業)就職内定率は64.2%であり、前年同時期と比べて0.2ポイント上昇した。



# 雇 用(完全失業率等)

- 全国の11月の完全失業率は2.9%で前月比で0.2ポイント上昇。岐阜県の7-9月期の平均は1.8%で前期比0.4ポイント悪化。
- 10月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比▲1.8%、製造業で同▲2.1%と減少。
- 10月の実質賃金増減率は、5人以上の事業所は前年同月比1.2%、30人以上の事業所は同1.0%増加。10月の消費支出については同▲4.3%と減少した。
- 10月の所定外労働時間数は前年同月比▲18.2%と10ヶ月連続で減少した。



# ＜経済・雇用の現状（総括）＞

- 製造業は、10月の鉱工業生産指数では、化学工業を除く、多くの主な産業で上昇した。ヒアリングでは、中国やアジア地域を中心に受注等が回復基調にあるとの声があった一方で、航空機関連部品の回復のめどが立っていないという声のほか、昨年10月に他県で発生した半導体工場の火災による影響を受けているという声もあった。
- 地場産業は、10月の鉱工業生産指数では、パルプ・紙、繊維工業を除いて、多くの産業で上昇した。ヒアリングでは、法人向けや国内向けの売上等が厳しい一方で、ECサイトを構築し、個人向けの売上げが好調となったとの声や海外、特にアジア圏では需要が堅調であるとの声があった。
- 設備投資は、11月の金属工作機械受注額について、国内向けで24ヶ月連続で前年を下回ったが、海外向けで2ヶ月ぶりに前年を上回り、全体としては25ヶ月ぶりに前年を上回った。ヒアリングにおいては、生産性向上に向けた設備投資を予定する声や投資内容を精査しつつ、堅調な業界向けの製造設備への投資を進める声があった。
- 個人消費は、家電大型専門店、コンビニ、ホームセンター、百貨店・スーパー、ドラッグストアの販売額は全て増加した。ヒアリングにおいては、客数は前年比で減少、売上は前年比で増加の傾向が続いていることや、帰省自粛の影響でお正月用の大勢で食べるような大皿の食品の注文が大きく落ち込んだとの声があった。
- 観光は、新型コロナウイルス感染症の影響により、観光客数、宿泊者数ともに前年同月を下回った。ヒアリングでは、感染拡大の影響やそれに伴うGoToトラベルの一時停止によるキャンセルが増加しているとの声や大人数での忘年会、新年会の開催がないとの声が聞かれた。
- 企業の資金繰りは、11月の制度融資実績で、引き続き、件数、金額ともに前年同月比で大きく増加したが伸びは鈍化している。金融機関からのヒアリングでは、年末の実質無利子・無担保融資の申込みについて、想定よりも落ち着いていたとの声が聞かれた。
- 雇用面は、11月の有効求人倍率は1.27倍と3ヶ月連続で上昇した。ヒアリングでは、人材不足感で中途採用を増やすとの声もある一方、繊維工業などでは余剰感があるとの声も聞かれた。